

(2) - 1) ③フクロウをシンボルにした里づくり (栃木県宇都宮市逆面地区)

フクロウをシンボルにして減農薬・減化学肥料による米作りを行い販売。フクロウをモチーフにした置物や看板をデザインし集落各地に設置するなどしてPRを行うなど地域づくりに役立っている。

a. 背景と経緯

栃木県宇都宮市逆面地区では、農地・水・環境保全向上対策事業に取り組むため、地域団体「逆面エコ・アグリ」の里」を設立。本団体には、地元の水利組合や営農組合をはじめNPO、地元小学校や宇都宮大学農学部などが参画している。事業活動の中で、化学肥料や農薬を減らすことに地域全体で取り組んでおり、面的に生きものの生息環境を守る基礎作りを行ってきた。

フクロウは農作物に害を及ぼすネズミやモグラを餌にする益鳥であり、里地里山に生息するフクロウの保護は化学肥料や農薬を減らす農法を行っていく上でも有益な鳥であるとされる。

構成団体の中には、このフクロウの保護・増殖活動に取り組むNPO法人が参加しており、フクロウ保護活動と田園環境保全にかかわる事業が結びつくことで、営農活動におけるフクロウをシンボルにした環境保全と活用が始まった。

b. 活用方法

■米などの農産物販売-「育む里のフクロウ米」-

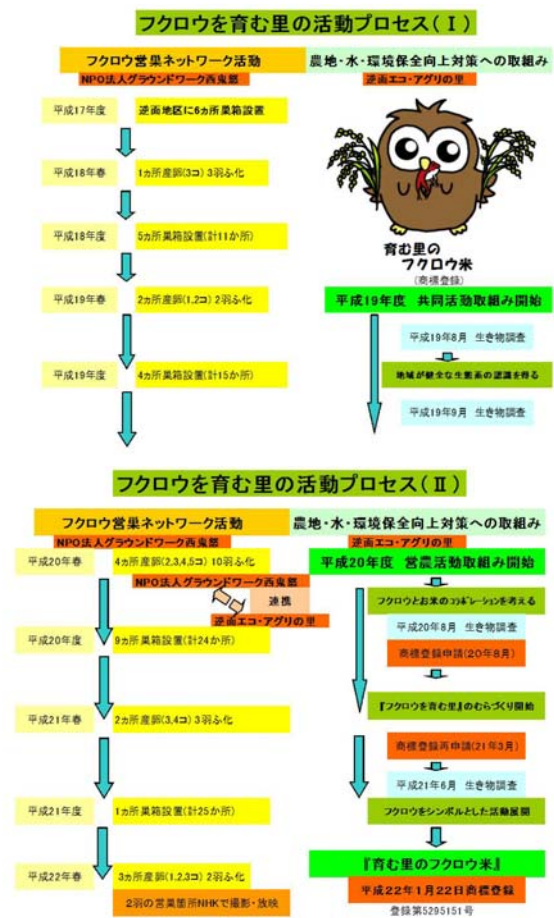
地区内の約9割の水田で化学肥料や農薬を半分に抑えた米を作っている。生態系豊かな田園環境のシンボルであるフクロウを利用して生産された米を「育む里のフクロウ米」という名称や「逆面のフクロウ米焼酎」、フクロウをモチーフにしたオリジナルキャラクターを作成し、商標登録をして、道の駅ロマンチック村等で販売している。

■交流活動のテーマとして

フクロウのイメージを活用して、生きもの保全のための環境教育プログラムを実施したり、「フクロウそば祭り」などの地域イベントを開催し好評を博している。

■地域PRのためのシンボルとして

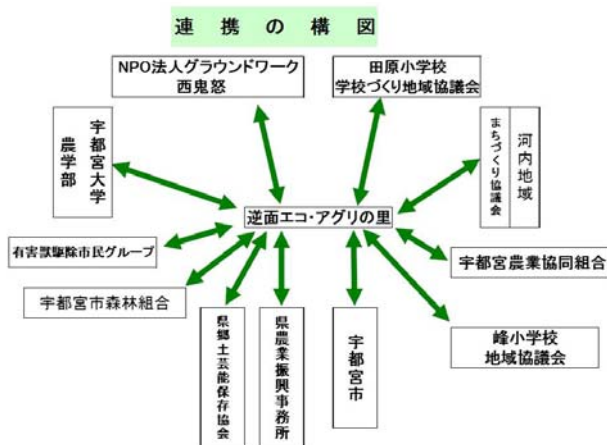
集落や各家の入口などにフクロウの置物や看板を設置。地域の知名度やブランド力向上に利用。



c. 保全活動と野生生物への効果

フクロウが生息する集落近傍の里山の保全整備を行うと共に、里山の各所に巣箱を設置し、保護増殖に取り組んでいる。また、餌となる生きものを増やすため減農薬や減化学肥料などの営農上の対策のほか、ビオトープを設置している。活動の結果、水田周りの生物多様性が向上すると共に、毎年継続的に集落近傍でフクロウが営巣し繁殖する姿が見られるようになった。

こうした取組が評価され「とちぎのふるさと田園景観百選」に選ばれた。また様々な団体との連携が進み地域外の人々との交流も生まれている。今後農業以外にも観光をはじめとした地域の様々な分野での活性化効果が期待されている。



とちぎのふるさと田園景観百選指定地の資源化

